

令和3年度
事業報告書

令和3年4月1日～令和4年3月31日



たきの森のようちえん
(滝野自然学園)



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

目次

I. 令和3年度 総括	1
II. 経営理念	2
III. 事業報告	
1. 事業実施状況	
2. 施設管理運営	
3. 事業実施報告概要（事業区分）	3
4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況	5
5. 各課（各施設）事業実施報告	
(1) こども事業課・こども育成課	(指定管理事業：児童会館 109 館) . . . 15
	(受託事業：ミニ児童会館 90 館)
(2) 千歳事業所	(受託事業：千歳市児童館 9 館・学童クラブ 17 箇所) 17
(3) こども劇場課	(指定管理事業：やまびこ座・こぐま座) 18
(4) 若者支援事業課	(指定管理事業：若者支援施設 5 館) 20
(5) 企画事業課	(地域活動等事業：野外活動系事業) 22
	(自主事業：滝野自然学園)
(6) 野外活動課	(指定管理事業：北方自然教育園) 23
(7) 野外活動課	(指定管理事業：定山溪自然の村) 24
(8) 野外活動課	(指定管理事業：青少年山の家) 25
(9) 市民参画課	(指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設) 27
(10) 企画事業課	(地域活動等事業：自主事業・受託事業) 29
(11) その他地域活動等事業	(こども育成事業、財団連携事業) 30
6. 重要な契約に関する事項 31
7. 基金事業	
IV. 事務報告 33
1. 設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 事務所の状況	
5. 役員等に関する事項	
(1) 理事	(2) 監事
(3) 評議員	
6. 職員に関する事項（事務局組織図） 35
(1) 主要な職員	(2) 職員数
7. 会計に関する事項 36

I. 令和3年度 総括

令和3年度は、前年度に続き、日本国内で感染拡大と収束を繰り返す新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける一年となり、「まん延防止等重点措置」発出期間の長期化により、当財団においても指定管理施設の利用制限や各種事業の中止、規模縮小等を余儀なくされることとなった。期中において各部門の事業計画の変更、事業内容及び数値目標の再設定を行い、社会動向に則した事業実施を図ったが、利用・参加人数、関連する事業収益等は、平常時の年度と比較し依然として減少する結果となった。

そのような中であっても、オンラインを併用したハイブリッド型事業や職員研修を積極的に展開し、その効果及び課題の検証を行った。併せて、業務の省力化、簡略化等、より効率的な業務遂行を目的としたシステム改修ならびに各種フローの見直しを行い、今後に向けた業務整理に取り組んだ。

各種事業を通じて、収入の減少や失業等により生活に困窮する世帯や若者、公共施設を始めとする「集う場」の利用制限や外出自粛により、従来の交流機会を失い、ストレスを抱える人々等、これまで以上にきめ細かな対応を必要とする事案、関係機関と連携を図る事案が多くあった。コロナ禍で希薄化した人とのつながりを、多様な事業スタイルで再構築していく当財団の使命に改めて向き合うとともに、社会の中で求められる役割、果たすべき責任を強く再認識する事業年度であった。

また、公益財団法人移行後10年目となる節目の年度にあたり、当財団の目的達成に向けた新規事業の獲得にも積極的に取り組み、新たに「千歳市青少年会館」の指定管理者として選定いただいた。令和3年度より受託を開始した「千歳市児童館・学童クラブ」の運営業務を始めとする、当財団のこれまでの取り組みが評価された結果だと受け止め、社会課題の解決に向けて、今後さらなる精進を重ねていく決意である。

令和4年度に向けて、新たに設置したデジタル戦略推進室を中心に、各種データやデジタル技術を活用した事業の実施、価値創出に挑むほか、ウィズコロナ、アフターコロナ時代を見据えて社会変化に柔軟に適応し、私たち公益財団法人だからこそ持ち得る強みを最大限に発揮していくことを目指す。



Ⅱ. 経 営 理 念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

Ⅲ. 事 業 報 告

1. 事業実施状況

令和3年度 事業基本方針	
1	社会課題解決に対応した事業内容の継続展開
2	他部門・他団体との業務連携等の推進
3	未来ビジョンに基づく事業の展開
4	既存業務のデジタル化の推進
5	部門別事業収支の適正化

2. 施設管理運営

(1) 自主事業 1 施設

・滝野自然学園

(2) 指定管理事業 116 館・4 施設

・若者支援施設	5 館
・児童会館	109 館
・青少年山の家	1 施設
・定山溪自然の村	1 施設
・北方自然教育園	1 施設
・札幌エルプラザ公共 4 施設	1 施設
・こどもの劇場やまびこ座	1 館
・こども人形劇場こぐま座	1 館

(3) 受託事業 99 館・17 箇所

・ミニ児童会館	90 館
・千歳市児童館・学童クラブ	9 館・17 箇所



3. 事業実施報告概要（事業区分別）

【定款第4条】 (1)青少年の健全育成と社会参加に関する事業

(2)社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

子ども育成事業

(1) 青少年活動支援事業

- ・放課後児童クラブ事業
- ・学習活動事業
- ・各種講座、講習会
- ・劇団育成支援事業
- ・インターンシップ、各種実習の受け入れ

(2) 体験機会創出事業

- ・社会奉仕活動事業
- ・各団体との共同開催事業
- ・子どもの体験活動機会を創出する事業

(3) 施設管理運営事業

- ・児童会館の管理業務、貸室等
- ・こども劇場の管理業務、貸室等

若者自立支援事業

(1) 体験機会創出事業

- ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
- ・交流促進事業
- ・ボランティア参加事業 等

(2) 受託事業

- ・若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等

(3) 調査研究事業

- ・社会的自立に関する調査・研究事業

(4) 施設管理運営事業

- ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

自然体験活動事業

(1) 滝野自然学園事業

- ・体験機会創出事業
- ・職員派遣事業
- ・情報発信事業
- ・団体支援事業
- ・施設管理運営事業

(2) 北方自然教育園事業

- ・体験機会創出事業
- ・施設管理運営事業

(3) 定山溪自然の村事業

- ・体験機会創出事業
- ・施設管理運営事業

(4) 青少年山の家事業

- ・体験機会創出事業
- ・施設管理運営事業

【定款第 4 条】 (3)市民活動の振興に関する事業

公 2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

- | | | |
|-----------|------------------|-------------|
| (1)活動支援事業 | ・ 男女共同参画啓発事業 | ・ 市民活動関連事業 |
| | ・ N P O 活動支援事業 | ・ 相談 ・ 支援事業 |
| (2)職員派遣事業 | ・ 大学、専門学校他への職員派遣 | |
| (3)情報発信事業 | ・ 各種情報誌の発行事業 | |

【定款第 4 条】 (4)その他法人の目的を達成するために必要な事業

収 1 イベント・物品貸与等事業

- ・ 民間企業等から受託したイベント
企画運営等事業
- ・ 物品貸与等事業

他 1 札幌エルプラザ等施設管理運営、 公益目的外での施設貸与事業

- ・ 札幌エルプラザ公共4施設、
定山溪自然の村、青少年山の家管理運営
- ・ こども劇場、若者支援施設における
公益目的外での施設貸与事業

4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況

こども事業課・こども育成課

札幌市児童会館

札幌市ミニ児童会館



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①札幌まなびのサポート事業「まなべえ」を通して、基礎的な学力の向上や高校進学を促進するための学習支援を行う。また、各部門と連携し、中学校卒業後の支援に向けた取り組みを推進する。 ②子どものくらし支援コーディネート事業をとおり、困難を抱えている子どもや家庭を早期に発見し必要な支援につなげる。	①新型コロナウイルス感染症対策のため開始延期や休止を余儀なくされる期間もあったが、オリジナル学習教材を学年別に作成しメッセージを添えて郵送する等、安定的な学習支援と継続的な関係維持に取り組んだ。 ②令和3年度より実施地区を市内全87地区に拡大し、コーディネーターを2人増員して事業を展開した。継続的に児童会館や子ども食堂への巡回活動を実施し、時間をかけて保護者・子ども本人と信頼関係を築くことで必要な支援につなげることができた。
		【施設運営等事業】 こども事業課 ①各企業・団体とのネットワークを拡大し、日常的かつ双方向での運用を推進する。 ②事業収支の適正化を図る。	①当法人職員としての専門性獲得、各種事業展開に生かすネットワーク構築を目的として福祉分野をはじめとする企業・団体と関係を深めた。 ②新型コロナウイルス感染症を主とする感染症予防対策費及び施設・設備等の維持管理、環境整備に係る経費に重点を置いた投資を進めた。
		【施設運営等事業】 こども育成課 ①あそびを通じた子どもの日常生活支援と発達支援を行う。 ②子どもと子育て家庭が抱える課題の早期発見と対応力の強化に努める。 ③子ども運営委員会の役割や効果の検証に基づき、子どもの権利を大切に、自己実現をとおりした成長の機会につなげる。 ④全道・全国との連携を強化し、行政の動向把握と将来構想へ向けた取り組みを行う。 ⑤未来を担う子どもたちのために、職員同士が育ちあう環境を整え、人間性豊かな指導者の育成を目指す。 ⑥こども育成課ミッション及びビジョンを職員に浸透させる。	①感染リスクが少ないとされる野外での活動、オンラインや動画・Webを活用した事業を実施し、子どもたちの主体性を生かし日常生活支援と発達支援を行った。 ②虐待やいじめ等の社会課題を職員が研修を通して学び、地域・学校等関連機関と連携することで予防・早期発見・対応力の強化を図った。 ③ルール決定や購入図書・遊具の選定を任せるなど子どもたちの意見を反映させる会館運営を行った。 ④北海道児童館連絡協議会の事務局を引き受け、将来的な事業展開を視野に入れ、全国・全道との連携強化のための関係づくりを行った。 ⑤「自主的に参加可能かつ学習者中心設計の研修」としてこども育成課アカデミーを実施する等、知識・技術の習得と専門性の向上を目指した。 ⑥「街とともに未来を育む人づくり」の浸透を目的にミッションブランドブックを作製し、全館に配付することでミッション浸透に努めた。
数値目標	共通目標	①利用者総数（こども育成課） 2,935,000人 ②事業プログラム参加者総数 【こども事業課】 2,000人 【こども育成課】 568,000人 ③利用者アンケートにおける満足度 【こども事業課】 4.0(5段階評価) 【こども育成課】 80.0%	①2,726,976人 (92.9%) ②【こども事業課】 3,524人 (176.2%) 【こども育成課】 424,101人 (74.7%) ③【こども事業課】 4.7(5段階評価) 【こども育成課】 86.9%
	部門目標	【こども事業課】 ①各種企業・団体等、新規関連ネットワーク団体との連携 15団体	①15団体 (100.0%)
		【こども育成課】 ①地域と連携した事業の実施回数 200回/年（全館）	①全館達成 (100.0%) ※達成率については目標達成館/200館により算出 543回/年 (271.5%)

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①千歳市、市内地場企業への宣伝活動を行う。	①千歳ロータリークラブ、千歳ライオンズクラブや千歳JC等、地場を支える団体とつながることができた。
		【施設運営等事業】 ①連続性を重視した円滑な業務移行を行う。 ②地域と交わる施設の運営をする。 ③千歳事業所機能を確立する。	①事業初年度であったが、職員向け事前説明会や研修を行うことで、札幌のノウハウを伝えつつ円滑に業務移行することができた。 ②各児童館が設置されている地域の民生児童委員や小中学校とは必要時に情報交換や連携を図る関係構築ができた。 ③千歳市児童館・学童クラブの取りまとめを確実にし、現場への全体指示を効果的に行う等、事業所として機能を果たすことができた。
数値目標	共通目標	①利用者総数 147,900 人	①141,596 人 (95.7%)
		②事業プログラム参加者総数 2,080 人	②3,078 人 (148.0%)
		③参加者アンケートにおける満足度 80%	③85.4%
	部門目標	①連携事業実施に向けた千歳市周辺企業・商店・大学等への訪問 10 社	①10 社 (100.0%)
		①児童館運営協議会の設置 2 館	①1 館 (50.0%) ※1 館については2月を予定していたが新型コロナウイルスの影響により中止。





公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収 1 イベント・物品貸与等事業

他 1 目的外での施設貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		<p>【地域活動等事業・施設運営等事業】</p> <p>①子ども文化の拠点 全国的に見ても数少ない子どもの専門劇場として文化芸術の力を実感する事業を展開し、地域の文化活動をリードしていく。また、良質な舞台芸術の創造発信や継続的な文化体験機会の創出を図り、子ども文化の必要性を社会に伝える。</p> <p>②人づくりが文化を育てる 文化芸術を継承する人材の養成を劇場運営の根幹に据え、子どものための人形劇や児童劇、伝統芸能等の担い手である市民劇団を育成する。その市民劇団により劇場は単に鑑賞の場としてだけではなく創造の場としての機能が加わり、様々な人が交わる地域コミュニティの発展を支える場を形成する。</p>	<p>①子どものための専門劇場という特性から、人形劇や伝統芸能のワークショップ依頼や地域団体からの作品創造の協力依頼、人形劇制作依頼等、外部からのニーズは多岐に渡った。これまでの実績から他部門・他団体に認められることにより、子ども文化の拠点としての役割を果たすことができた。</p> <p>②第 50 回札幌人形劇祭では、24 劇団もの参加があり、特に子ども部門の飛躍は大きく、これまで劇場や児童会館等に向けて取り組んできた子どもたちに向け、文化体験活動による人材育成の手ごたえが感じられた。また、助成金によりリモート機材を導入することで、職員・参加者・劇団をオンライン上でつないだ事業を展開することができた。</p>
	共通目標	<p>①利用者総数（年間利用者数） やまびこ座 25,000 人 こぐま座 13,000 人</p> <p>②事業プログラム参加者総数 18,000 人</p> <p>③参加者アンケートにおける満足度 85%</p>	<p>①やまびこ座 26,174 人（104.7%） こぐま座 12,927 人（99.4%）</p> <p>②16,097 人（89.4%）</p> <p>③99.2%</p>
数値目標	部門目標	<p>① やまびこ座 年間上演日数 98 日、 公演数 146 回 こぐま座 年間上演日数 86 日、 公演数 150 回</p> <p>②新規人形劇団の誕生及び育成 3 団体</p> <p>③中島児童会館・人形劇場こぐま座資料室「MA・SO・BO」年間利用人数 4,000 人</p>	<p>①やまびこ座 99 日（101.0%） 147 回（100.7%） こぐま座 94 日（109.3%） 142 回（94.7%）</p> <p>②4 団体（133.3%）</p> <p>③5,971 人（149.3%）</p>



公１ 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収１ イベント・物品貸与等事業

他１ 目的外での施設貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①若者の居場所機能の拡充およびユースワークの理念の共有について、複数年度で達成されるものと考え関係づくりに臨む。	①全 Youth+ で施設外の居場所確保を進め、各々の地域の課題やニーズを踏まえて協働団体と共に運営した。新型コロナウイルスの影響により施設の休館措置期間が長期化したため、アウトリーチ（夜回り）を実施したことにより新たな若者との出会いの場を創出することができた。
		【施設運営等事業】 ①若者自身が「子ども・若者の権利」を自然な形で体験できる機会を増やし、意見表明によって社会が変わる実感を獲得できる仕組みをスモールステップで展開していく。 ②さっぽろの若者支援のトップリーダーとして事業推進し「発信力」「影響力」を高める。 ③デジタルリソース・データを最大限に活用した効率的・効果的な運営を行う。	①若者にとって身近な話題を取り上げ、誰でも気軽に意見表明のできる心理的参加ハードルの低い事業を展開し、若者の参加意欲向上を図った。 ②新規事業として Youth+ の「社会的役割」や「質的評価」の向上を目的とした「若者のエピソード評価プロジェクト」を立ち上げた。数値だけでは表すことのできない若者のエピソードを発信することで「新たな理解者の獲得」を目指した。 ③事務処理の効率化及び利用者の利便性を高めることを目的に、新たな施設利用登録等の施設管理システム導入に向けて着手した。
数値目標	共通目標	①利用者総数 123,000 人 ②事業プログラム参加者総数 31,000 人 ③参加者アンケートにおける満足度 96%	①105,806 人 (86.0%) ②30,303 人 (97.7%) ③98.0%
	部門目標	①利用証の発行を受けた若者等登録者 8,000 人 ②若者の延べ利用者数 100,000 人 ③新規に相談を受けた自立支援登録者数 400 人 ④自立支援登録者のうち進路決定者数 345 人	①8,137 人 (101.7%) ②84,285 人 (84.3%) ③304 人 (76.0%) ④228 人 (66.1%)



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。 ②魅力ある施設周辺フィールドを生かした自然体験プログラムの提案等、PR活動を進め、財団内外の新規・リピートの利用促進を図る。 ③関連 NPO 団体との連携体制を強化し、効率的な施設運営、事業展開を目指す。 ④自主事業の拡充や幅広い分野からの指導事業受託を図る。	①補助金や受託事業等の獲得を通して収支バランスをできる限り適正に整えた。 ②財団職員向け体験会やファミリーデイキャンプなど、フィールドを生かしたプログラムを展開し、財団内外の利用促進につながった。 ③関連 NPO 団体と定期的に運営会議を設け、連携を図りながら「さとやま探検隊」等、新たな連携事業にも取り組むことができた。 ④可能な限りの自主事業を展開し、新たな受託事業の獲得を行うことができた。
	共通目標	①利用者総数 2,400 人（実人数） ②事業プログラム参加者総数 900 人 ③参加者アンケートにおける満足度 95%	①2,431 人（101.3%） ②786 人（87.3%） ③98.0%
	部門目標	①財団内利用件数 10 件	①15 件（150.0%）
	数値目標		





		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供する。 ②地域住民との関係性を深めるための事業を実施する。 【施設運営等事業】 ①小中学校の体験学習への安定的な機会提供と学習機会の強化を行う。 ②生物教材配布の生物の飼育方法の見直しと幼保小中学校への安定的な供給を行う。 ③SNS、HP、オンライン会議等を活用した小中学校に対する事前および事後学習を支援する。 ④学びの農園（Learning Garden）実施に向けての調査研究を行う。 ⑤野外施設部内の連携強化及び、他セクションの強みを生かした事業連携強化を図る。 ⑥NPO 法人ネイチャープログラムデザインと連携強化する。	①家庭菜園をテーマに、オンラインを活用して幅広い世代に向けて事業を実施した。 ②白井川地区の地域活動として、共同で使用している水源地の泥除去や除草等、整備を行った。 ①新型コロナウイルスの影響を受けながらも、施設として可能な対策を模索し、できる限り提供した。 ②生育された教材配布用の生物の分譲を受けることで、飼育にかかる業務を削減し、生物教材の維持飼育に重点を置き、安定的な教材配布につなげることができた。 ③植物の生育状況等を分かりやすくまとめた動画を作成し、希望する学校に提供することで子どもたちが遠隔で学べるように学習環境を整えた。 ④数年間かけて、標本園に植える植物についての生育状況を記録し、花や野菜の特性等を冊子にまとめた。 ⑤児童会館の利用を積極的に誘致する事業を開催し、利用増進に努めた。 ⑥農園作業の技術の伝承を中心に施設の運営補助全般で連携を強めた。
	共通目標	①利用者総数 3,000 人 ②事業プログラム参加者総数 260 人 ③参加者アンケートにおける満足度 85%	①3,270 人 (109.0%) ②418 人 (160.8%) ③86.0%
	部門目標	①小中学校を対象とした農業体験事業の提供 25 校(800 人) (延べ参加校) ②学習館入館の料金収入増 57,600 円	①22 校(737 人) (88.0%) ※達成率については目標校数/25 校より算出 ②79,400 円 (137.8%)



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 目的外での施設貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①施設利用の領域拡大を目指し、平日利用者向けの提供プログラムを開発する。 ②札幌市内の児童に対する自然体験活動プログラムを提供する。 【施設運営等事業】 ①自然体験活動に対して特別な支援を必要とする児童、団体、家族、グループを対象としたスペシャルニーズキャンプの実践とプログラムを開発する。 ②冬期利用促進を目的とした事業を実施する。 ③他団体や企業との連携を強化し、利用促進につながる教育的効果の高い事業を多様な手法を用いて実施する。 ④野外施設部内の連携強化及び他セクションの強みを生かした事業連携強化を図る。	①平日利用促進事業として「星空写真撮影講習会」、「アウトドア珈琲講習会」を平日の夜間に企画実施し、利用促進を図った。また、家族・グループ単位で楽しむことができ、自然体験のきっかけとなるプログラムとして施設内の展示やスノーシューコースの整備等を行い、利用者主体で楽しめるように努めた。 ②昨年度より引き続き、札幌市内小学校4校及び児童会館との連携事業「ようこそ児童会館」を実施し、9回176人の子どもたちに自然体験プログラムの提供を行うことができた。 ①スペシャルニーズをもつ団体への支援において中学校特別支援学級の日帰り利用の受け入れと継続したモニター調査事業を展開した。札幌市内3校の参加があり、事前に活動に関するアンケートを実施し、不安点や疑問を解消し、利用者に寄り添ったプログラム作成を行った。 ②12～3月の冬期事業として5事業を実施した。冬季キャンプのハウトゥー事業や冬の自然環境を楽しむ事業等、多数の参加応募をいただき、満足度の高いプログラムを提供した。 ③札幌市青少年科学館との連携事業「夏休み天体観望会」やアウトドア企業や地元企業と連携した「定山溪ウィンターキャンプフェスティバル」等を実施し、施設のPRにつなげることができた。 ④市民参画課環境プラザと協力し、人材交流を含めた事業展開を行った。企画段階から打合せを重ね、両施設が持つ強みを生かしたプログラムを実施できた。都市型のフィールドと定山溪自然の村の自然環境を生かしたフィールドでの遊びを通して、親子が自然の面白さや大切さに気付くきっかけを提供することができた。
	数値目標	①利用者総数 11,800人 ②事業プログラム参加者総数 1,800人 ③参加者アンケートにおける満足度 98%	①12,056人 (102.2%) ②3,121人 (173.4%) ※うち1,048人は定山溪ウィンターキャンプフェスティバルオンライン特設会場閲覧数 ③99.0%
		①冬期野外活動促進(下期利用率) 31% ②セルフモニタリング調査実施件数 400件 ③実践型森林環境教育の推進(参加人数) 500人 ④貸室業務 10,836千円	①32.0% ②400件 (100.0%) ③730人 (146.0%) ④貸室業務 10,063千円 (92.9%)
	共通目標		
	部門目標		



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 目的外での施設貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①コロナ禍の状況に合わせて新たなプログラム開発に継続的に取り組む。 ②プログラム提供回数の増進に取り組む。 【施設運営等事業】 ①持続可能な社会繁栄に向けた SDGs 事業を推進する。 ②新規プログラムを提供し、内容と満足度の向上を図る。 ③部門内外、他団体、地域との連携を強化し、事業発展の可能性を拡大する。 ④閑散期（4月、11月、12月、3月）を中心とした利用促進を図る。 ⑤市民のニーズを反映し、より必要とされる施設を目指す。	①5～9月利用予定の学校団体が、コロナ禍により10～12月に振替えとなったことに合わせ、施設近傍で実施可能な炊事プログラムを新たに開発した。 ②炊事プログラムの新規開発により、提供回数を増加させることができた。 ①アレルギー原材料が含まれている食材を極力使用しないメニュー構成への変更や配慮が必要な方への入浴時間確保等、個々の多様性に配慮した取り組みを進めた。また、市内小学校へSDGsをテーマにした出張事業を行った。 ②防災炊事や焚火でおやつ体験等、炊事プログラムを充実させたことで、利用者の満足度向上につなげることができた。 ③こども事業課と連携し、市内児童会館への出張事業を実施したほか、企画事業課との連携により実施した、札幌市教育委員会主催事業「冬の自然体験フェス」を通して、他部門及び関係機関との連携を強化した。 ④リーフレットの更新・配布等、感染状況に合わせて利用促進活動を行ったほか、こども事業課と連携し、児童会館の利用を誘致した。 ⑤秋～冬季用プログラムの新規作成、個別食から学校給食形式への食堂食提供方法の変更等、感染状況への対応と運営協議会でいただいたご意見や利用団体からの要望の反映を図りつつ施設運営を行った。
	共通目標	①利用者総数 38,000人 ②事業プログラム参加者総数 6,000人 ③参加者アンケートにおける満足度 95%	①37,231人（98.0%） ②11,134人（185.6%） ③96.6%
	部門目標	①利用のしやすさに対する満足度 88% ②実利用人数 23,000人 ③閑散期の一般利用団体数 20団体	①92.1% ②23,099人（100.4%） ③21団体（105.0%）

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①次の時代を見据え受託事業等に取り組み、ノウハウの蓄積や国や関係機関との連携を意識した事業展開を図る。 【施設運営等事業】 ●男女共同参画センター事業 ①ジェンダー平等達成に向けた取り組みを行う。 ②子ども・若者のエンパワメント事業を実施する。 ③ワーク・ライフ支援を行う。 ●市民活動サポートセンター事業 ①次世代活動者の掘り起こしと支援を行う。 （人材養成、コーディネート） ②市民活動団体との協働拡充を図る。 ●環境プラザ事業 ①さまざまな団体との関わりを継続し多面的に連携する。 ②情報収集・発信を充実させる。 ●情報センター事業 ①人と人、人と情報をつなぐ取り組みを実施し、コミュニティを形成する。	①北海道女性起業家支援ネットワーク事業ではコロナ禍により、創業支援を取り巻く環境等の影響を受けたが、ネットワーク構成機関と女性の起業支援の課題を共有し、目指す社会的インパクトを考える機会として、メンター研修と会議を実施した。 ●男女共同参画センター事業 ①男女共同参画についての情報交換を行う機会を通して、市民一人ひとりが改めて今後の課題やアクションを考えるきっかけとすることができた。 ②大学生とともにジェンダー課題について考え、意見交換をする中でこれから行うべきアクションについて考えることができた。 ③ワーク・ライフ支援事業を通して、女性役員や取締役が増えていくことの意義を再確認する機会を提供することができた。 ●市民活動サポートセンター事業 ①「社会課題」への取り組みも職業としての選択肢の一つとして考える機会や、運営において必要なミッション・ビジョンについて改めて考え取り組んでいける機会を提供することができた。 ②掲示板型のアンケートにより、幅広い年齢層が目に見える形で事業に対する考えや SNS の活用状況等、互いを知ることのできる交流機会を創出した。 ●環境プラザ事業 ①外部団体と協働し動画の作成・配信を行うことで、多くの市民に対して環境保全の意識啓発を行うことができた。 ②大学の講義や環境団体等、多方面の関係者と協力を行うことで、ネットワークを広げるとともに、市民が環境について考えるきっかけを提供することができた。 ●情報センター事業 ①多様な市民が集う場における情報共有の方法を提供し、参加者同士の交流につなげた。
	共通目標	①利用者総数 234,300 人 ②事業プログラム参加者総数 22,200 人 ③参加者アンケートにおける満足度 86%	①256,958 人 (109.7%) ②17,283 人 (77.9%) ③施設満足度 91.0% 接遇満足度 96.0%
数値目標	部門目標	①男女共同参画センター 男女共同参画の啓発 31 回 ②市民活動サポートセンター 市民活動啓発事業の実施 9 回 ③環境プラザ事業 環境活動の機会提供 28 回 ④情報センター事業 SDGs の意識啓発につながる取り組み 12 回	①51 回 (164.5%) ②9 回 (100.0%) ③45 回 (160.7%) ④33 回 (275.0%)



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①新しい生活様式による事業の提案と実施を進める。 ②「あそぼ」等の広報活動の継続と効果的な活用を図る。 ③労働安全衛生法第59条第3項に基づく「特別教育等」を財団内外で実施し、独自の認定書を交付する。	①オンラインを主軸とした、感染拡大防止を踏まえた事業展開を実施した。 ②「あそぼ」紙面に社会的課題に関わる内容なども取り入れたことにより、読者に対して社会的課題への興味関心を高めることができた。 ③組織として必要な安全衛生教育を実施し、認定書を交付することができた。
	共通目標	①コロナ禍により自主運営によるイベント事業の開催を見送ったため、目標の設定なし。	
数値目標	部門目標	①イベント収益総額 2,850 万円 ②他課連携事業数 3 回 ③財団内「特別教育等」実施数 6 回	①3,787 万円 (132.9%) ②5 回 (166.7%) ③3 回 (50.0%)



5. 各課（各施設）事業実施報告

(1) こども事業課・こども育成課【指定管理事業：児童会館 109 館】

【受託事業：ミニ児童会館 90 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「親子 DE 体験 ステンドグラス～世界に一つだけのガラス細工～」</p> <p>ステンドグラスの講師を招き、日常では経験できない本格的なステンドグラス制作を親子で体験する機会を設けた。多様な材料を用意したことで選ぶ段階から親子で楽しく協力しながら進めることができた。真剣な眼差しで制作に取り組む子どもたちの様子を見て、保護者には子どもたちの成長を感じてもらえた。コロナ禍で家族と参加できるイベントが少ない中での事業実施だったため、保護者からは貴重な体験だったとの声があがった。</p>	<p>日時：2月5日（土）</p> <p>会場： 百合が原児童会館</p> <p>参加人数：15組 30人</p>
	<p>「南区チャレンジ DAY ～ミスターXからの挑戦状～」</p> <p>コロナ禍においても南区の子どもたちが会館の枠を超えて同じ時間を過ごす楽しさを共有することを目的にリモートを用いた交流事業を実施した。出題されたミッションをオンライン上で協力しながらクリアしていく内容で進行した。また、事前に児童会館職員を対象にリモート通話の操作等を学ぶ機会を設け、現場職員のオンライン技術のスキルアップを図る活動も行った。</p>	<p>日時：1月13日（木）</p> <p>会場： 南区児童会館（18館）</p> <p>参加人数：464人</p>
	<p>「白石Ⅰ・Ⅱ合同行事 キッズプレイキャンピング」</p> <p>自然体験活動を提供することを目的に、滝野自然学園にて実施した。スノーラフトやチューブスライダー等を体験し、冬ならではの遊びを満喫し、日常を離れのびのびと過ごすことのできた充実した時間となった。</p>	<p>日時：1月17日（月） ・18日（火）</p> <p>会場：滝野自然学園</p> <p>参加人数：80人（延べ）</p>
	<p>「キラキラキッズコレクション online ～ひろがれ笑顔の輪～」</p> <p>清田区児童会館の広報活動の一環として、清田ブロックで令和3年度に実施した合同事業を動画にして、ユーチューブで配信した。動画制作にあたりオリジナルソングとダンスを制作し全館で練習、撮影を実施した。</p>	<p>①予告動画配信開始： 3月2日（水） 742回再生（3/31現在）</p> <p>②前編配信開始： 3月15日（火） 1534回再生（3/31現在）</p> <p>③後編配信開始： 3月18日（金） 344回再生（3/31現在）</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会フォロー 事業	<p>「小学5～6年生向け冬の学習会」</p> <p>経済的困窮等の理由から習い事等の体験機会が不足している小学5～6年生を対象に学習機会を提供した。参加者にとって、スタッフが親世代や先生ではなく年齢の近い大学生であることがやる気につながっていた。初対面の参加者同士であったが休憩時間には仲良く遊び、会話をする場面が見られた。</p>	<p>日時：1月12日（水） ～14日（金）</p> <p>会場： 男女共同参画センター・Youth+アカシア</p> <p>参加人数：27人（延べ）</p>
社会参加・ 貢献啓発事業	<p>「こども・若者支援を地域で考える ～夜の街『すすきの』で生きる若者たち～」</p> <p>「平成駆け込み寺」を運営している鈴木啓之さんによる講演と、すすきの地区で活動する方々をゲストに招いてパネルディスカッションを実施した。すすきの地区における現状や支援の取り組みを知り、市民一人ひとりが子ども・若者が孤立せずに成長するための関わり・地域のあり方について考えるきっかけになった。</p>	<p>日時：3月21日（月）</p> <p>会場：オンライン</p> <p>参加人数：74人</p>

札幌市児童会館・札幌市ミニ児童会館利用状況

利用状況

(人)

区分 利用者区分	開館日数及び回数(延べ数)	人 数	利 用 人 数 の 内 数					
			幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	31,604	1,559,950	55,385	1,168,081	226,308	34,567	13,139	62,470
ミニ児童会館	26,726	1,095,082	584	942,816	147,946	75	10	3,651
占用利用	5,954	71,944	3,143	13,193	15,528	11,855	1,411	26,814
総 利 用		2,726,976	59,112	2,124,090	389,782	46,497	14,560	92,935
前年度比		2,701,710 (100.9%)	92,884 (63.6%)	2,010,865 (105.6%)	377,704 (103.2%)	64,862 (71.7%)	29,314 (49.7%)	126,081 (73.7%)

(児童クラブ在籍数)

(人)

区分	令和3年4月末日現在の在籍数							延べ 入会	延べ 退会	令和4年3月末日現在の在籍数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍人数	6,414	5,823	4,346	2,649	1,243	490	20,965	25,113	3,064	7,225	6,229	4,562	2,783	1,320	517	22,636

4月末日現在の在籍数の比較(前年度 21,237人・前年比 98.7%)

(障がい児受け入れ数)

(人)

区分								内訳	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	クラブ	直接来館
普通学級	133	174	121	104	48	20	600	596	4
特別支援学級	116	106	80	63	49	35	449	431	18
特別支援学校	7	7	1	1	0	0	16	16	0
計	256	287	202	168	97	55	1,065	1,043	22

(前年度 1,007人・前年比 105.8%)

(2) 千歳事業所【受託事業：千歳市児童館 9 館・学童クラブ 17 箇所】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>市民向け講座「コロナ禍の今だからこそ、遊びの力を」</p> <p>「遊び」に着眼し、コロナ禍の子どもたちを取り巻く環境はどのように変化しているかを学び、いかに日常に近い遊びや子どもたちとの関わりを持つことが必要で重要であるかを一般市民向け講座としてオンラインを併用して実施した。会場参加者からも web 参加者からも、いくつもの質問があがり、子どもたちを取り巻く環境に興味関心を持つ大人が千歳市内に多いことを知ることができた。</p>	<p>日時：10 月 21 日（木）</p> <p>会場：千歳文化ホール</p> <p>参加人数：一般：47 人 web 参加：26 人 合計：73 人</p>
	<p>ひので児童館・ふれあい学童クラブ</p> <p>「千歳ロータリークラブ遊具寄贈式」</p> <p>千歳市児童館・学童クラブで楽しく過ごすために、千歳ロータリークラブより遊具の贈呈があった。子どもたちより遊具のプレゼントに対して手紙や歌によって感謝の気持ちを表した。当日は北海道新聞や地元タウン誌の取材もあり、千歳市内全体へ活動を伝えることができた。</p>	<p>日時：12 月 21 日（火）</p> <p>会場：ひので児童館・ ふれあい学童クラブ</p> <p>参加人数：26 人</p>
	<p>「おでかけ人形劇」</p> <p>千歳市児童館・学童クラブ 3 箇所では人形劇公演を実施した。普段観劇する機会が少ない人形劇を体験することで、参加者から自分自身で人形に触れ、演じてみたいとの声もあり芸術文化への興味関心を高めることができた。</p>	<p>①日時：3 月 22 日（火） 会場：しなの児童館 参加人数：35 人</p> <p>②日時：3 月 24 日（木） 会場：ほくよう児童館 参加人数：70 人</p> <p>③日時：3 月 25 日（金） 会場：ちとせっこ児童館 参加人数：65 人</p>

千歳市児童館・学童クラブ利用者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学童クラブ	10,088	7,286	8,757	8,732	7,782	7,823	8,594	8,137	7,805	5,373	4,304	6,705	91,386
児童館	6,690	2,613	2,092	5,453	3,447	1,863	5,952	6,540	6,344	3,463	1,590	4,163	50,210
総 計	16,778	9,899	10,849	14,185	11,229	9,686	14,546	14,677	14,149	8,836	5,894	10,868	141,596

(人)

(3) こども劇場課【指定管理事業：やまびこ座・こぐま座】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	<p>「第 50 回札幌人形劇祭」</p> <p>コンクール形式の人形劇公演を実施した。各人形劇団の作品に対し審査員からアドバイスを受けることにより、人形劇の質的・技術的向上を図った。併せて、各劇団が一堂に会することで、各劇団の交流を促進し人材育成につなげた。</p>	<p>日時：1 月 8 日（土） ～10 日（月）</p> <p>会場：やまびこ座</p> <p>参加人数：636 人</p> <p>※24 団体/152 人</p> <p>※観客数 484 人</p>
地域連携事業	<p>「R3 応援☆人形劇おでかけ公演 R3 舞台体験ワークショップ」</p> <p>児童会館へ札幌の人形劇団やアーティストが出向き、人形劇公演および体験（伝統芸能・人形浄瑠璃体験）ワークショップを実施した。子どもたちへ心の栄養と笑顔を届けることを目的とし、コロナ禍によって活動が停滞した劇団やアーティスト、舞台スタッフの支援も兼ねて、札幌の子どもたちへ文化支援を行った。</p>	<p>日時：11 月 6 日（土） ～1 月 21 日（金）</p> <p>会場：市内児童会館</p> <p>参加人数：1,380 人</p>
	<p>さっぽろパペットシアタープロジェクト「北のおぼけ箱」</p> <p>（公財）北海道演劇財団との協働事業として実施した。児童サービス「ペングアート」の子どもたちとワークショップを行い舞台美術の制作をした。人形劇の創作活動により、障がいの有無にかかわらず誰もが共に手を携えて取り組むことで、多様な人々が暮らす社会で共生する意識を育むことを目指した。アイヌ民譚集「えぞおぼけ列伝」より脚本化した、アイヌ文化の理解促進普及啓発を目的とした人形劇を製作し、やまびこ座を会場に公演を行った。</p>	<p>日時：1 月 19 日（水） ～2 月 20 日（日）</p> <p>会場：やまびこ座・中島児童会館・ペングアート（美園・北野）</p> <p>参加人数：442 人（延べ）</p>
公演事業	<p>「座・競演～にっぽんの伝統芸能～」</p> <p>日本の伝統芸能を堪能できる「座・競演」シリーズを開催した。2 日は、子ども向けの伝統芸能体験ワークショップを開催。3 日の第一部は「八王子車人形西川古柳座（東京）」、「さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座（札幌）」が出演し、第二部は関西から上方伝統文化芸能ユニット「霜乃会」が出演した。</p>	<p>日時：10 月 2 日（土） ・3 日（日）</p> <p>会場：やまびこ座</p> <p>参加人数：220 人</p>



札幌市こども劇場利用状況報告

■こどもの劇場「やまびこ座」

【利用状況】

区 分	件 数 (件)	人 数 (人)
ホール	438	13,570
会議室	220	1,208
研修室	275	3,075
美術工作室	384	3,683
ロビー・展示室・図書コーナー	-	1,430
研修・見学	-	54
その他（アウトリーチ事業、屋外事業等）	-	3,154
総 利 用 数	1,317	26,174

利用件数 前年度：1,388件

前年比：94.9%

利用人数 前年度：25,005人

前年比：104.7%

【ホール利用内訳】

観劇者数	無料（人）	926
	招待（人）	704
	有料（人）	6,121
	合計（人）（a）	7,751
出演者の数（含むリハーサル）（人）	（b）	5,819
出演者観劇者総数（人）	（a + b）	13,570
上演回数（回）		147
上演日数（日）		99
仕込み・リハーサル・研修日数（日）		108
上演1回あたりの観客数（人）		53

○あおぞらキッズシアター上演回数：2回、1日

○ほしぞらキッズシアター上演回数：1回、1日

上演回数=147回（ホール144回+3回）

■こども人形劇場「こぐま座」

【利用状況（ホール利用内訳）】

観劇者数	無料（人）	625
	招待（人）	158
	有料（人）	3,499
	合計（人）（a）	4,282
出演者の数（含むリハーサル）（人）	（b）	1,152
出演者観劇者総数（人）	（a + b）	5,434
研修・見学	（c）	7,493
利用者総数	（a+b+c）	12,927
上演回数（回）		142
上演日数（日）		94
仕込み・リハーサル・研修日数（日）		127
上演1回あたりの観客数（人）		30.2

利用人数 前年度：10,345人

前年比：125.0%

(4) 若者支援事業課【指定管理事業：若者支援施設 5 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流促進事業	<p>「交流促進プログラム 居場所拡充事業」</p> <p>施設外においてユースワークを展開するための調査等を実施し、地域と連携して協働での新たな居場所の確保を目指し取り組んだ。また、さまざまな理由から施設で出会うことの難しい若者等に地域の中で安心できる居場所や機会を提供し、若者にとって必要な新たな出会いを創出した。また、若者との何気ない会話や関わりの中から一人ひとりの抱えている課題等をキャッチし、若者にとって安心できる居場所として定着するよう信頼構築に取り組んだ。</p>	<p>日時：4 月 1 日（木） ～3 月 31 日（木）</p> <p>会場：各 Youth+近隣会場等</p> <p>参加人数：218 人（延べ）</p> <p>実施回数：70 回</p>
	<p>「出張ユースワーク事業」</p> <p>休館措置等により個別対応やオンライン開催が続いたが、10 月以降は感染対策を講じ対面での実施を継続することができた。また、大通高校については、学校との連携によりオンライン開催に取り組み、可能な範囲で生徒たちと向き合うことができたことは新たな成果であった。各学校の協力も得られ、施設紹介等を授業に位置付けていただくことで、より多くの生徒に Youth+の魅力を伝える機会となった。また、好事例集をリーフレットと一緒に紹介することで、自立支援登録者数につながった。</p>	<p>日時：4 月 20 日（火） ～3 月 31 日（木）</p> <p>会場： 各学校およびオンライン</p> <p>参加人数：1,477 人（延べ）</p>
	<p>「フィールド型 キッチンカー事業」</p> <p>各拠点を中心にキッチンカーを活用したカフェ部活動を実施し、各拠点の中で地域の方々ともつながる機会が増えた。また、新たな活動としてキッチンカーペイントプロジェクトや夜回りカフェ部を実施した。</p>	<p>日時：6 月 1 日（火） ～3 月 31 日（木）</p> <p>会場： （拠点型）もみじ台地域・中島地域・真駒内地域 （連携型）児童会館連携・学校連携・他団体連携 （訪問型）札幌市内公園</p> <p>参加人数：1,120 人（延べ） ※若者：1,005 人 一般：115 人</p>
調査研究事業	<p>「プロジェクト型 若者の声発信」</p> <p>Youth+の社会的役割及び質的評価を高めていくために、若者の声（エピソード）発信の強化を図った。地域の中で理解者となり得る学校職員に対し、各 Youth+を利用する若者の状況をエピソードとして取り上げた「Youth+通信 Vol. 1～3」を作成し各学校へ配布した。</p>	<p>日時：6 月 1 日（火） ～3 月 31 日（木）</p> <p>会場：市内中学校・高校 に通信を配布</p> <p>配布回数：年間 3 回 ※各学校 50 部程度</p>

札幌市若者支援施設利用者数

(単位：人)

内 訳	センター	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	合計
自立支援事業	14,589	0	0	0	0	14,589
若者	9,893	0	0	0	0	9,893
一般	4,696	0	0	0	0	4,696
交流促進事業	4,044	1,682	807	1,335	1,838	9,706
若者	3,907	1,662	804	1,297	1,823	9,493
一般	137	20	3	38	15	213
社会参加促進事業	1,249	575	3,055	714	415	6,008
若者	1,118	484	706	621	415	3,344
一般	131	91	2,349	93	0	2,664
ロビー利用	3,836	1,430	1,431	1,878	2,712	11,287
若者	3,793	1,412	1,413	1,647	2,673	10,938
一般	43	18	18	231	39	349
貸室利用	14,325	19,951	4,459	20,450	5,031	64,216
若者	11,125	17,303	2,925	16,295	2,969	50,617
一般	3,200	2,648	1,534	4,155	2,062	13,599
合計	38,043	23,638	9,752	24,377	9,996	105,806
若者	29,836	20,861	5,848	19,860	7,880	84,285
一般	8,207	2,777	3,904	4,517	2,116	21,521

【令和2年度】

※自立支援事業	…若者	9,895人	(R3対比	100.0%)	一般	4,031人	(R3対比	116.5%)
※交流促進事業	…若者	13,330人	(R3対比	71.2%)	一般	140人	(R3対比	152.1%)
※社会参加促進事業	…若者	5,452人	(R3対比	61.3%)	一般	2,810人	(R3対比	94.8%)
※ロビー利用	…若者	19,161人	(R3対比	57.1%)	一般	737人	(R3対比	47.4%)
※貸室利用	…若者	82,344人	(R3対比	61.5%)	一般	25,633人	(R3対比	53.1%)
※総利用者数	…若者	130,182人	(R3対比	64.8%)	一般	33,351人	(R3対比	64.5%)



(5) 企画事業課【地域活動等事業：野外活動系事業、自主事業：滝野自然学園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
職員派遣事業	<p>「さとやま探検隊運営補助業務」</p> <p>NPO 法人ネイチャープログラムデザインが子どもゆめ基金の助成を受けて実施した事業であり、実施にあたっては当財団の所有するツリークライミング等の物品や当日の運営補助に人員を派遣した。初開催の事業であったが、近隣の児童会館等に広報活動を行っており、高い定員充足率となった。</p>	<p>日時：10月2日（土）、 11月13日（土）</p> <p>会場：青少年山の家、 滝野自然学園</p> <p>参加人数：18人、26人</p>
	<p>TOYOTA SOCIAL FES 2021</p> <p>「ヒグマから学ぼう！自然と共生するためにできること」</p> <p>(株)アドバコム(主催 トヨタ自動車(株))からの受託事業であり、当初は滝野自然学園や青少年山の家をフィールドとした親子対象を事業実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響によりヒグマトランクキットを活用したオンラインでの実施となった。</p>	<p>日時：12月11日（土）</p> <p>会場：オンライン</p> <p>参加人数： 常時 65 アカウント以上の閲覧あり</p>
	<p>さぽーとさっぽろ主催 親子レクリエーション</p> <p>「家族でわくわく冬あそび」</p> <p>さぽーとさっぽろからの受託事業であり、新型コロナウイルスの影響により、秋季に準備を進めていたツリークライミングプログラムは中止となったが、冬季の事業実施へとつながった。メインプログラムにはスノーラフト、スノーチューブ、スノーシュー、ピザ焼き体験を行った。どのプログラムも、参加者それぞれのタイミングで参加できるように区切りを設けずに流動的に実施した。</p>	<p>日時：2月11日（金） ～13日（日） (日帰り)</p> <p>会場：滝野自然学園</p> <p>参加人数：計16組53人</p>

滝野自然学園 利用状況（延べ）

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人 数	105	30	87	401	338	46	726	175	142	358	164	135	2,707
団体数	6	3	5	12	11	1	7	6	5	8	8	6	78

前年度比 延べ人数：123.1%（前年度人数2,198人）

団 体 数：114.7%（前年度団体数68団体）



(6) 野外活動課【指定管理事業：北方自然教育園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
地域活動等事業	<p>自然環境関連フォーラム</p> <p>「お子さんと取り組むプランターでもできる野菜作りのススメ」</p> <p>オンラインでの事業開催を行い、気軽に参加していただける環境を用意した。画像等を積極的に活用し、視覚的な情報でわかりやすい内容にしたことで、子どもたちからの反響もあり、大変好評であった。</p>	<p>日時：3月26日（土）</p> <p>会場：オンライン</p> <p>参加人数：6組23人</p>
施設運営事業	<p>「体験農場」</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため施設休館が余儀なくされ、他の事業が中止となり、その余剰の果樹が発生したが、参加校数への割り当てを増やす等、昨年以上の収穫数を提供し、臨機応変に対応した。収穫体験授業時にはパネルで害虫等の説明も行い、楽しいだけではなく果樹農家の苦勞を知ってもらう良い機会となった。</p>	<p>日時：5月～11月</p> <p>会場：北方自然教育園</p> <p>参加人数：22校737人 (延べ)</p>
	<p>「新年しめ飾りづくり」</p> <p>新年しめ飾り作りを通して、しめ縄の作り方や伝統的な風習について学ぶ機会を提供できた。「なぜ稲ではなく菅草を使用するのか」「飾りつけの由来や縁起物について」を説明したことで、参加者はしめ飾りだけでなくお正月と神社の関係性についても関心を寄せる場面が見受けられた。</p>	<p>日時：12月18日（土） ・19日（日）</p> <p>会場：北方自然教育園</p> <p>参加人数：7組24人</p>

札幌市北方自然教育園利用状況

	施 設 利 用								体 験 農 場		自然 体験 学習会		自然 ふれあい 事業		その他事業等 (ボランティア等)		事業		合計		
	学校・園		一般			小計		小計													
										校数	人数	団体	個人	人数計	団体	人数	校数	人数			
	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数			組数	人数						組数 (団体)	人数	
合計	17	531	17	266	1,318	1,584	34	2,115	22	737	12	39	4	14	14	365	30	418	64	3,270	
前年度比												人数		73.7%（前年度人数4,431人）							
												組数		80%（前年度組数 80組）							



(7) 野外活動課【指定管理事業：定山溪自然の村】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「ようこそ児童会館」</p> <p>こども育成課との連携事業の一環とし、児童会館に通う児童を対象に野外活動体験の提供を進めた。薪割り、スノーシューを用いた森の探検や焚き火体験等、定山溪自然の村のフィールドを生かし、自然体験活動を提供できた。児童会館とは違う環境で活動できた事で、参加者・担当職員ともに好評の声を得ることができた。</p>	<p>日時：</p> <p>①夏～秋季</p> <p>9月27日（月）</p> <p>～11月6日（土）</p> <p>②冬季</p> <p>12月11日（土）</p> <p>～2月11日（金）</p> <p>回数：9回</p> <p>会場：定山溪自然の村</p> <p>参加人数：176人（延べ）</p>
	<p>「森のようちえん」</p> <p>市民参画課環境プラザとの連携で、幼児期から自然に触れ面白さや大切さに気づくきっかけの提供を目的に実施した。季節に応じた「あそび」を中心としたプログラム展開を行った。また、職員間で親子が楽しめる自然あそびのノウハウを共有することができた。</p>	<p>日時：①日帰り編</p> <p>10月17日（日）、</p> <p>1月23日（日）</p> <p>会場：北海道大学構内</p> <p>参加人数：44人（延べ）</p> <p>日時：②宿泊編</p> <p>11月7日（日）</p> <p>・8日（月）、</p> <p>2月6日（日）</p> <p>・7日（月）</p> <p>会場：定山溪自然の村</p> <p>参加人数：18人（延べ）</p>
	<p>「定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバル」</p> <p>感染症対策のため集合型開催をやめホームページ上に特設会場を作りオンライン上で実施した。定山溪自然の村での活動を写真で共有する「あなたのキャンプフォトアルバム」や、インスタライブを用いた「定山溪自然の村利用のススメ」等、オンライン上で自然の村の魅力を伝えることができた。また、過去の事業に参加していただいた企業と相互リンクを行い、アウトドア企業や地元企業との連携を図る機会となった。</p>	<p>日時：</p> <p>3月5日（土）</p> <p>～3月13日（日）</p> <p>会場：オンライン特設会場</p> <p>参加人数：1,048人（特設会場閲覧数）</p>

札幌市定山溪自然の村利用状況

<利用件数>

(件)

区分	令和3年度	令和2年度	前年度比
コテージ	1,288	1,617	79.7%
テントハウス	1,159	1,195	97.0%
テントサイト	2,348	2,883	81.4%
合計	4,795	5,695	84.2%

<利用人数>

(人)

区分	令和3年度	令和2年度	前年度比
コテージ	4,481	5,645	79.4%
テントハウス	3,793	4,157	91.2%
テントサイト	3,640	4,523	80.5%
見学者	142	198	71.7%
合計	12,056	14,523	83.0%

(8) 野外活動課【指定管理事業：青少年山の家】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
自主事業	<p>「パッケージドプログラム出張事業」</p> <p>身近な森への興味関心を高めるために駒岡小学校に講師を派遣した。森林循環をテーマにした授業の後に、木の伐採、薪づくりをとおして自然と触れ合う体験を行った。</p>	<p>日時：10月30日（土）</p> <p>会場：駒岡小学校</p> <p>参加人数：72人</p>
	<p>「トランクキットプログラム出張事業」</p> <p>北海道の固有種であるヒグマ及びエゾシカの生態について正しく理解を深めてもらうとともに、野生動物についての愛護の精神や環境の保全、人間との共生について考える機会として実施した。スライドでのクイズ、毛皮等のレプリカに触る体験を行った。事業課が全体調整等を担当したため、プログラムの企画に注力することができた。</p>	<p>日時：11月～3月</p> <p>会場：札幌市児童会館 及び千歳市内の児童館</p> <p>参加人数：計475人</p>
生涯学習事業	<p>「冬の自然体験フェス」</p> <p>札幌市内の小学生とその保護者を対象に、自然体験活動の普及啓発のため実施した。イベントには札幌市教育委員会や札幌市の教員で組織されている札幌市野外活動研究会、企画事業課と連携して、冬の自然をテーマに各種体験活動を提供した。提供ブースとして、防災炊事、スノーシュー体験、食堂体験や焚火でおやつ体験等の企画運営を行った。さまざまな団体と協働で実施することで、多角的に冬の自然体験の魅力を発信することができた。</p>	<p>日時：1月10日（月）</p> <p>会場：山の家</p> <p>参加人数：177人</p>
	<p>「たきの森フェス～2022WINTER～」</p> <p>未就学児から保護者世代まで幅広い来園者を対象に、クラフト活動やヒグマトランクキットを中心に、各種自然体験活動を提供した。すすらん公園が持つフィールドの強みと山の家が持つ体験プログラム提供のノウハウを合致させることができ、今後の事業展開にもつながることが期待できた。</p>	<p>日時：2月27日（月）</p> <p>会場： 滝野すすらん丘陵公園</p> <p>参加人数：559人</p>

札幌市青少年山の家利用状況報告書

項目		団体数（件）	実利用者数（人）	延利用者数（人）
学 校	幼稚園等 (4歳以上)	5	139	139
	小学校	275	18,692	31,381
	中学校	11	453	453
	高校	9	337	613
	盲聾養護学校	0	0	0
	専門学校	2	37	55
	大学	0	0	0
	その他の学校	2	3	3
青少年団体	少年団体	28	1,385	2,231
	青年団体	0	0	0
指導者団体	学校教育関係	2	69	96
	社会教育関係	0	0	0
親子		5	64	107
官公庁		3	113	113
その他		20	394	627
主催事業		31	1,413	1,413
計		393	23,099	37,231

団体数	(前年度 264件	前年度比 148.9%)
実利用者数	(前年度 10,891人	前年度比 212.1%)
延利用者数	(前年度 17,732人	前年度比 210.0%)



(9) 市民参画課【指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
【男女共同参画センター】 ジェンダーイシュー に関わる事業	「ジェンダー平等をめぐる対話のために ー『マジョリティの特権』への理解を通じてー」 1 回目は「マジョリティの特権とは」、2 回目は「ジェンダー対立を乗り越えるには」というテーマで参加者同士での対話を行った。参加者からは自らの行動を変えようとする声も寄せられ、深い学びや気づきを得ることができる機会を提供できた。	日時：3 月 7 日(月) ・15 日(火) 会場：オンライン 参加人数：37 人
【男女共同参画センター】 男性のための ワーク・ライフ相談 /ジェンダーイシュー に関わる事業	「あなたは『一般男性』ですか？ ～他人事で済ませたくない、生きづらさと男らしさの話～」 男性視点でのジェンダーに関する著作が豊富な講師を招き、実施した。前半は、男性が役職や年収、経歴といった外側で評価が下される社会において、自身の内面や感情の機敏を尊重することについて解説していただき、後半は哲学対話の方法を用いて「言いつばなし、聞きつばなし」のグループトークを行った。終了後には参加者の自主的な振り返り会が行われ、今後につながる事業となった。	日時：3 月 9 日(水) 会場：オンライン 参加人数：12 人
【市民活動サポートセンター】 研修学習に関する事業	人材養成講座事業「楽しい会議のつくり方～オンライン編～」 NPO 組織運営に必要な知識や技術についての研修機会を提供し市民活動団体の組織基盤強化及び実務能力の向上を目指し、オンラインツールを用いた会議の進め方について講義を通して学習した。参加者は、オンラインの活用方法等を十分に学ぶことができ、時勢のニーズに合わせた内容を提供できた。	日時：1 月 26 日(水) 会場：オンライン 参加人数：13 人
【環境プラザ】 コーディネート事業	学生団体『北海道 CARP』への活動支援業務 ならびに共催事業「WAKUWAKU 4U project」 若者支援事業課より紹介を受けた学生団体「北海道 CARP」へ事業の企画協力、プログラム立案や広報等といった諸業務の支援し、環境保全の活動実践の機会、利用者をつなげる機会の提供を行った。「北海道 CARP」の持ち込み企画である「WAKUWAKU 4UProject」は環境プラザの共催事業として実施し、小学生を対象に SDGs をテーマとしたゲーム等を通して環境保全の意識を持つことの重要性を伝えた。	日時： ①11 月 3 日(火) ②11 月 27 日(土) ③12 月 11 日(土) 会場：札幌市環境プラザ展示コーナー 参加人数：延べ 34 人
【情報センター】 情報コンシェルジュ 事業	「多様な人と“描いて”場をつくる ～グラフィックファシリテーション～」 防災の啓発活動をしている講師を迎え、図やイラストを活用したグラフィックファシリテーションの講座を実施した。前半は、幼い子どもや年配者、日本語が不得意な方がいる場で情報を届けるためにグラフィックが有効であることや絵が苦手でもシンプルな線や形を組み合わせることで表現が可能であること等を学び、後半は、参加者も紙とペンを使って実践に取り組んだ。職場や市民活動等の場面で使える「情報共有」のスキルを学ぶ機会を提供することができた。	日時：3 月 13 日(日) 会場： 札幌エルプラザ 情報センター 参加人数：12 人

札幌エルプラザ公共4施設利用状況

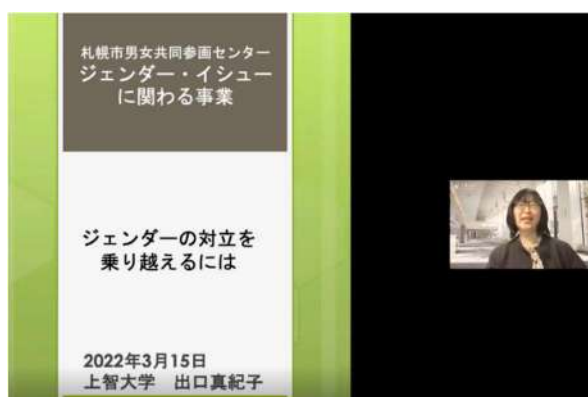
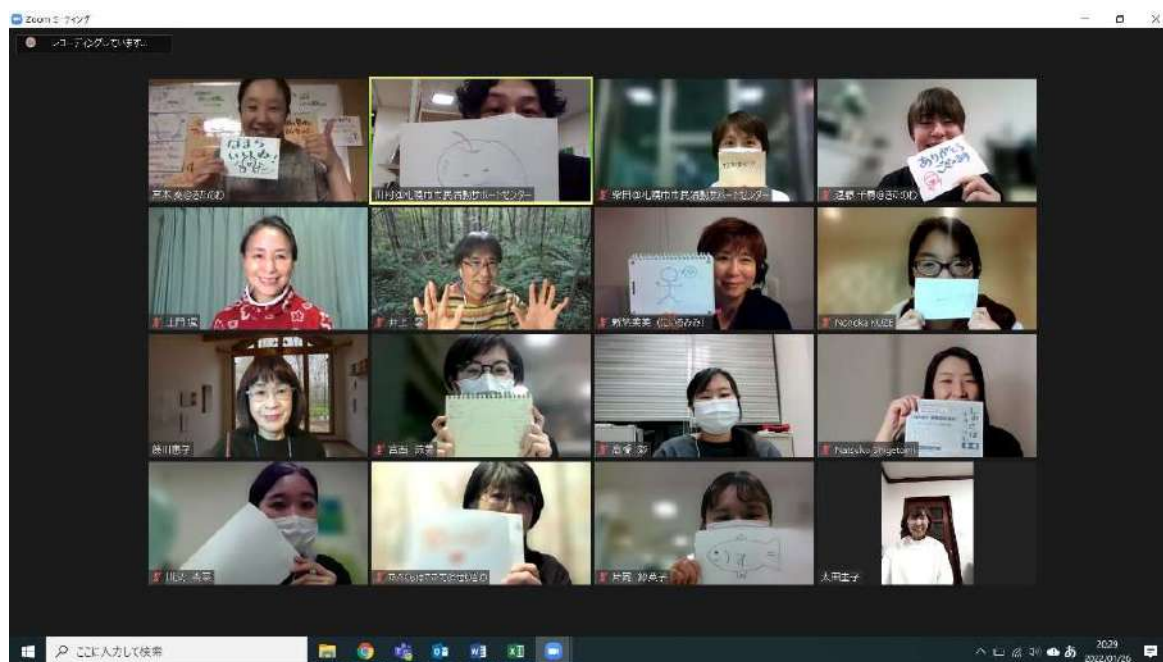
(人)

	男女共同参画 センター	消費者センター ※	市民活動 サポート センター	環境プラザ	情報センター	令和3年度 総利用者数
施設利用	143,682	9,377	21,920	9,659	0	184,638
相談事業	236	9,342	542	27	0	10,147
観察・見学	10	0	13	167	0	190
展示コーナー	－	－	－	9,171	0	9,171
総合学習	－	－	－	47	0	47
施設外事業	5,762	－	95	9,840	0	15,697
計	149,690	18,719	22,570	28,911	37,068	256,958

※消費者センター施設利用、相談事業件数に関しては消費者協会分を含む

【令和2年度】

※施設利用	…	192,413人	(R3対比	96.0%)
※相談事業	…	11,270人	(R3対比	90.0%)
※観察・見学	…	100人	(R3対比	190.0%)
※展示コーナー	…	15,200人	(R3対比	60.3%)
※総合学習	…	119人	(R3対比	39.5%)
※施設外学習	…	6,893人	(R3対比	227.7%)
※総利用者	…	225,995人	(R3対比	113.7%)



(10) 企画事業課【地域活動等事業：自主事業・受託事業】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
受託事業	<p>「オンライン水道工作会」</p> <p>(一財)さっぽろ水道サービス協会より受託し、コロナ禍で実施可能なプログラムを検討して事業を実施した。中央区児童会館と水道記念館をオンラインでつなぎ、ウォッピキーホルダー作り、水道事業を周知するための水道記念館紹介やクイズ大会を行った。</p>	<p>日時：11月2日(火)</p> <p>会場： 中央区児童会館6館</p> <p>参加人数：60人</p>
	<p>「西区魅力創出プロジェクト事業 ものづくり見学会」</p> <p>西区民のまちづくりの興味関心を高めることを目的に、JFE 条鋼株式会社豊平製造所と白い恋人パークへの見学を行った。JFE 条鋼株式会社豊平製造所では、日常の中で使われている製品が生まれ変わる過程を見学し、子どもたちのリサイクル意識を高めることができた。参加者も認知する施設への見学だったため、改めて自分たちの住む町の魅力について再認識する機会を提供することができた。</p>	<p>日時：11月20日(土)</p> <p>会場：JFE 条鋼株式会社 豊平製造所</p> <p>参加人数：9人</p> <p>日時：1月7日(金) ・12日(水)</p> <p>会場：白い恋人パーク</p> <p>参加人数：計40人</p>
企画提案事業	<p>令和3年度次世代の活動の担い手育成事業 「超まちフェス6」</p> <p>札幌市市民自治推進課での企画審査会を経て受託した「令和3年度次世代の活動の担い手育成事業」の1つとして実施した。大学生や若者等、若い世代の「まちづくり活動」取り組みや現状を周知するイベントで、同事業で設置した「札幌市まちづくり若者実行委員会」が主体となって企画運営を行った。このほかにも、小学生部門、中学生部門、高校生部門でそれぞれ事業を実施しており、本イベントはその集大成として位置付けた事業となっている。</p>	<p>日時：3月6日(日)</p> <p>会場： 札幌市地下歩行空間 北3条広場</p> <p>参加人数：391人</p>



(11) その他 地域活動等事業等（こども育成事業、財団連携事業）

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
青少年活動 支援事業	<p>「札幌まなびのサポート事業『まなべえ』」</p> <p>生活困窮世帯の中学生に対して、学習習慣の獲得と自尊感情や自己肯定感が持てる居場所提供を目的として実施した。6月事業開始予定のところ、所管部局の判断で本格開始は10月となった。</p> <p>事業中断期間には、オリジナルの学習教材を学年別に作成し、メッセージを添え各世帯に郵送する等、継続的な関係維持に取り組んだ。また、職員向け研修会や学生ボランティア向け研修会については、オンラインを基本として実施した。</p>	<p>期間：通年</p> <p>回数：715回</p> <p>会場：児童会館等40会場</p> <p>登録中学生：478人</p> <p>登録大学生：250人</p>
	<p>「子どものくらし支援コーディネート事業」</p> <p>コーディネーター2人増員し、26地区が拡大となり市内全87地区での事業展開となった。子どもの居場所や支援者を巡回するなかで、多くのケースを各種関係機関と連携を行った。過年度に相談受理したケースについても、近隣住民や保護者・子ども本人との信頼関係を一定期間時間をかけて築くことで、結果として対象者・世帯に必要な支援につなげることができた。</p>	<p>期間：通年</p> <p>新規受理相談件数：293件</p> <p>継続支援ケース：687件</p>



6. 重要な契約に関する事業

(1) 地域活動等事業

(千円)

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌まなびのサポート事業	札幌市長	47,141
地域若者サポートステーション事業	北海道労働局総務部長	44,132
子どものくらし支援コーディネート事業	札幌市長	27,060

(2) 指定管理事業

(千円)

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長	3,765,867
札幌エルプラザ公共4施設管理業務	札幌市長	249,350
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長	188,364
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会教育長	128,635
札幌市定山溪自然の村管理業務	札幌市教育委員会教育長	75,834
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長	48,922
札幌市栄西小はんのき児童会館管理業務	札幌市長	31,846
札幌市羊丘児童会館管理業務	札幌市長	31,846
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会教育長	30,342
札幌市発寒南さくら児童会館管理業務	札幌市長	6,055

(3) 受託事業

(千円)

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長	2,078,150
千歳市児童館・学童クラブ運営業務	千歳市長	346,712

7. 基金事業

(1) こども基金「さっぽろスマイルキッズ」助成事業 協力者一覧

寄付金総額 392,662 円 全 19 件

【団体】 2 件 (円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
やまびこ座 読み語りの会	10,000
旧栄通児童会館運営委員会	150,000
合 計	160,000

【法人】 3 件 (円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	16,662
株式会社館野オフィスサービス	50,000
北海道デジタル・アンド・コンサルティング株式会社	10,000
合 計	76,662

【個人】 14 件 (円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
個人寄付者	156,000
合 計	156,000

※助成事業は上期応募なし。下期は新型コロナウイルス感染症により中止。

(2) こども若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業 協力者一覧

寄付金総額 2,068,850 円 全 24 件

【団体】 1 件 (円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
匿名希望	30,000
合 計	30,000

【法人】 7 件 (円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
北海道行政書士会 札幌支部	50,000
法人寄付者	1,691,750
合 計	1,741,750

【個人】 16 件 (円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
中村 正彦	10,000
個人寄付者	287,100
合 計	297,100

【利用実績】

開所日数	利用実数	本人	家族	支援者	来室者計
209 日	71 人	延べ 517 人	延べ 75 人	延べ 316 人	延べ 908 人

【利用者の状況】

小学生未満	小学生	中学生	15～19 歳	20 代
16 人	1 人	9 人	23 人	22 人

【実施したイベント】

シングルマザー向けいとこんち体験会、青少年科学館遠足、落語鑑賞、
誕生会、バーベキュー・星空観測会、地域向け事業報告会、
クリスマスパーティー、卒業パーティー 他

子ども・若者の居場所「いとこんち」事業の様子

札幌市立中島中学校区内にある民泊施設を活用し、おおむね 13 歳から 19 歳の子ども・若者を対象に、週 3 日程度、勉強や食事、料理、入浴等の日常生活を送り、社会的自立を目指す家庭生活体験の場を提供した。



日常の様子



「バーベキュー・星空観測会」の様子

IV. 事 務 報 告

1. 設立年月日：昭和 55 年 4 月 1 日

2. 定款に定める目的

この法人は、人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
- (2) 社会教育の推進に関する事業
- (3) 市民活動の振興に関する事業
- (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

4. 事務所の状況

主たる事務所：札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1 番 10 号

従たる事務所：札幌市北区新琴似 8 条 1 丁目 1 番 34 号 2 階

5. 役員等に関する事項

(1) 理事

理 事 長	野 崎 清 史	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 理事長
専務理事	森 有 史	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 専務理事
理 事	相 馬 宏 哉	NPO法人ネイチャープログラムデザイン 理事長
理 事	菊 地 秀 一	(一社)札幌市私立保育連盟 会長
理 事	藪 淳 一	(一社)札幌市私立幼稚園連合会 会長

(2) 監事

監 事	西 田 史 明	札幌商工会議所 理事・事務局長
監 事	梅 津 太	税理士

[令和 4 年 3 月 31 日現在 計 7 人]

令和3年度における理事会は、次のとおり4回開催した。

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和3年 6月7日	【第33回理事会】 1「令和2年度事業報告及び附属明細書の承認」の件 2「令和2年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件 3「令和3年度予算の変更」の件 4「定時評議員会の日時並びに目的である事項」の件	1 可決 2 可決 3 可決 4 可決
令和3年 6月23日	【第34回理事会】 1「専務理事の選定」の件 2「専務理事の報酬月額等の決定」の件	1 可決 2 可決
令和3年 11月9日	【第35回理事会】 1「職務執行状況報告」の件 2「その他報告」の件 3「令和3年度事業計画書の変更」の件	1 報告 2 報告 3 可決
令和4年 3月9日	【第36回理事会】 1「職務執行状況報告」の件 2「その他報告」の件 3「令和3年度予算の変更」の件 4「令和4年度事業計画書及び収支予算書等の承認」の件	1 報告 2 報告 3 可決 4 可決

(3) 評議員

評 議 員	梶 井 祥 子	札幌大谷大学 教授
評 議 員	菊 池 恒	札幌市商店街振興組合連合会 理事相談役
評 議 員	柴 田 千 尋	(公財)北海道青少年育成協会 専務理事
評 議 員	西 田 充 潔	北星学園大学 教授
評 議 員	秦 直 樹	社会福祉法人常德会 理事長
評 議 員	林 美枝子	日本医療大学 教授
評 議 員	村 形 亜佐美	札幌市 PTA 協議会 副会長
評 議 員	箭 原 恭 子	(公社)札幌市母子寡婦福祉連合会 理事長

[令和4年3月31日現在 計8人]

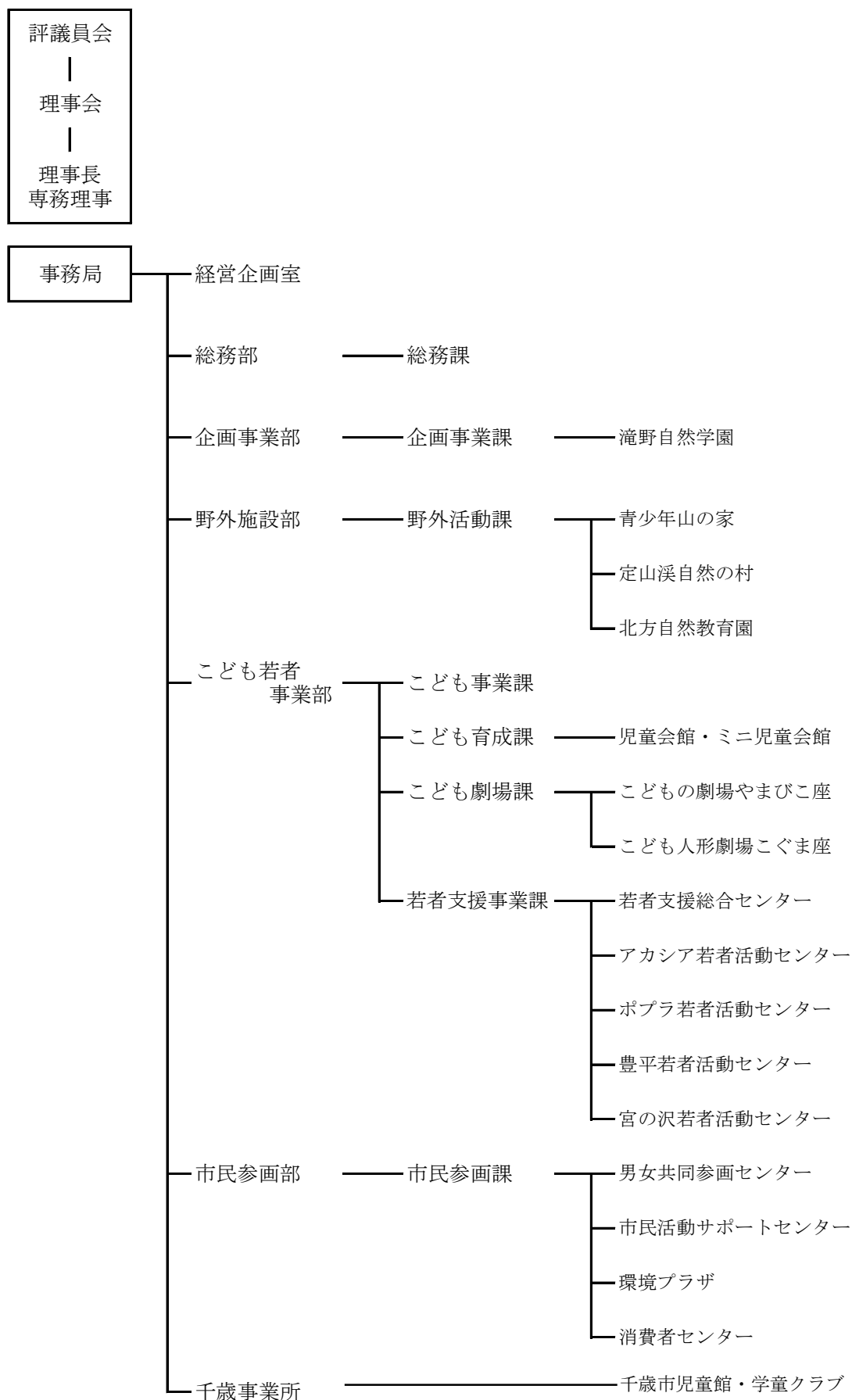
令和3年度における評議員会は、次のとおり1回開催した。

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和3年 6月23日	【第10回評議員会】 1「令和2年度事業報告及び附属明細書」の件 2「令和2年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件 3「理事の選任」の件 4「監事の選任」の件 5「評議員の選任」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決 5 可決

6. 職員に関する事項（令和3年度末現在）

令和4年3月31日現在における事務局組織は次のとおりである。

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 機構図



(1) 主要な職員

役 職 名	氏 名	採用年月日	担 当 職 務
事務局長	生 出 裕 一	平成元年 6 月 19 日	財団運営業務の総括
経営企画室長	佐々木 勝 敏	平成 12 年 4 月 1 日	経営企画室業務の総括
野外施設部長	石 井 一 彦	昭和 63 年 4 月 1 日	企画事業部・野外施設部の総括
こども若者事業部長	五 十 嵐 健 二	平成元年 4 月 1 日	こども若者事業部業務の総括
こども若者支援担当部長	松 田 考	平成 13 年 1 月 1 日	こども若者支援事業業務の総括
こども育成担当部長	岡 本 峰 子	昭和 61 年 4 月 1 日	こども育成部門業務の総括
こども育成担当部長	会 田 彰 仁	平成 4 年 2 月 1 日	こども育成部門業務の総括
市民参画部長	下 川 原 清 貴	昭和 63 年 12 月 14 日	市民参画部業務の総括
総務課長	土 井 聖 子	平成 12 年 4 月 1 日	総務・財務・経理等の総括
人事担当課長	佐々木 初 美	平成 15 年 4 月 1 日	人事・労務等の総括
企画事業課長	小 林 剛 至	平成 12 年 8 月 1 日	企画事業課業務の総括
野外活動課長	大 場 睦 彦	昭和 62 年 4 月 1 日	青少年山の家総括
定山溪自然の村担当課長	志 賀 和 行	昭和 63 年 2 月 1 日	定山溪自然の村の総括
こども事業課長	加 藤 孝	平成 12 年 4 月 1 日	こども事業課業務の総括
管理担当課長	野 坂 真 英	平成 11 年 1 月 1 日	児童会館管理に関する総括
こども育成課長	山 田 憲 克	平成 10 年 4 月 1 日	育成課調整に関する総括
児童会館担当課長	高 橋 雅 裕	平成 8 年 5 月 1 日	児童会館（厚別・清田・白石担当）
児童会館担当課長	蓮 井 潤 子	平成 4 年 4 月 1 日	児童会館（中央・南・手稲担当）
児童会館担当課長	長谷川美千代	平成 11 年 6 月 1 日	児童会館（東・豊平担当）
児童会館担当課長	山 田 弓 人	平成 8 年 12 月 1 日	児童会館（北・西担当）
こども劇場課長	矢 吹 英 孝	平成 3 年 4 月 1 日	こども劇場課業務の総括
市民参画課長	高 坂 美 江	平成 12 年 4 月 1 日	エルプラザ公共 4 施設業務の総括
市民活動担当課長	斉 藤 美 季	平成 5 年 6 月 1 日	市民活動に関する調整
千歳事業所課長	森 口 雅 和	平成 11 年 10 月 1 日	千歳事業所の総括

(2) 職員数

(令和 4 年 3 月 31 日現在)

事務局長職	1 人	主任パートスタッフ	254 人
総合職	596 人	サポートスタッフ	39 人
児童指導員	183 人	再任用職員	25 人
専門指導員	34 人	臨時職員	70 人
職場限定職員	17 人	パートタイム職員	1,079 人
合 計			2,298 人
内常勤職員数	1,124 人	内非常勤職員数	1,174 人

7. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結（「独立監査人の監査報告書」：令和 4 年 5 月 25 日）



SYAA

公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会